

1. 再答案作成の目的

MMCでは、教室および自宅で取り組んだ事例問題の再答案を作成し、答案の質を高める学習をすすめています。再答案とは、1回目に取り組んだ事例の添削済み答案をもとに、解説講義や解説動画、解答解説集、テキスト等を参考にしながら、もう一度同じ事例問題の答案を作成することです。その目的は、「高得点答案作成の技術(書き方、多面性、切り口、キーワードなど)の習得と定着」です。学習の初期段階では、事例問題の得点は40~50点台が多いと思いますが、時間をかけてじっくり再答案に取り組むことで高得点のコツを身に付けることができ、徐々に初見の問題でも、合格点・高得点を安定的に確保できるようになることが期待できます。再答案の作成・提出は、次の点に注意し、効果的な取り組みを行ってください。

2. 再答案作成の注意点(再答案の提出は各事例1回になります)

□ 再答案は、解答用紙の添削コメント、解説講義および解説動画、解答解説集、その他テキスト類を参考にしながら、時間をかけて、じっくりとお取り組み下さい。再答案は「単なるやり直し」ではなく、答案作成力の向上を目的としていますので、書き方・切り口・キーワードなどの技術を身に付けていくイメージで取り組んでください。

□ MMCでは80点を最高レベルの得点として採点しています。再答案は80点を目標に取り組んで下さい。

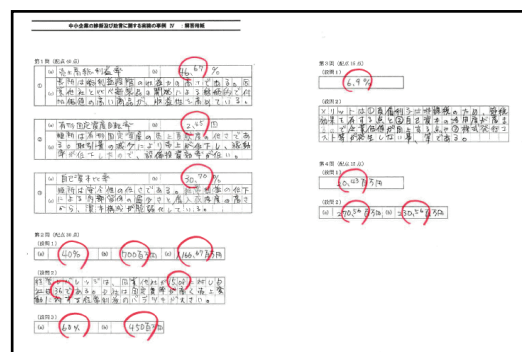
□ 解答例は、遠慮なく真似てください。MMCの解答例は、MMCでお伝えしている解法技術を使って作成した答案です。これを真似ることで、安定的に、合格点・高得点が取れるようになると考えられますので、どんどん解答例を真似て、書き方や切り口・キーワードを自分のものにしてください。

□ 再答案の作成は、配点の80%に満たない部分のみを答案用紙に記入し提出してください。1回目の答練で配点の80%に達した設問は、再答案は不要ですので、その設問は空欄で提出ください。

□ 財務事例の再答案は、特に記述部分の内容・表現を採点します。このため、計算問題の数値は必ず正しい解答を書き赤ペンで○印をつけて提出してください(計算ミスしたものや○印がないものも、正解とみなして採点します)。100字などの記述式の設問も、答案中に数値がある場合は、必ず確認し数値に○印をつけて提出してください。例)⇒



再答案は答案が返却されてから時間を空けずに取り組んでください。



1. 本試験答案作成の目的

本試験問題の答案の添削も行います（添削の対象となる事例は平成24年から28年までの5カ年分です）。本試験問題も再答案学習と同じく答案作成力を高めることを目的として取り組むことが学習効果を高めると考えます。80分の制限時間を設けずに取り組み、今の自分の最高の答案を作成してください。

2. 本試験答案作成の注意点（本試験答案の提出は各事例1回になります）

本試験問題への取り組みは、次の方法（手順）が最も効果的と考えます。本試験の答案は、以下の手順で取り組んだ答案を提出してください。

- ①始めに80分で事例問題に取り組みます。（この段階では答案を提出しません）
- ②解答・解説集等を参考に、自分の答案に不足している視点や内容を確認します。この段階で、自分で、不足している視点や内容に気づける『目利き』を強化します。そして不足している視点や内容を踏まえ、再度、答案を作成・修正します。この確認・修正が答案作成の実力を大きく高めます。
- ③答案は、1～数日寝かせ、再度、答案を自分で読み直します。この段階で、自分で、自分の文章の伝わり易さをチェックします。伝わり難い個所があった場合は、それを修正します。修正し終えた段階の答案、つまり、確実に80点に到達していると考えられる自分の最高の答案を提出し、採点・添削を受けます。MMCでは、受験生自身では気づき難い、読みやすさや伝わり易さ等を中心にチェックします。

※本試験答案の採点は、単なる腕試し的に取り組んだ答案は採点いたしかねますのでご注意ください。

- ・本試験答案（過去問）の提出締め切り（アップロード締め切り）は、平成29年7月3日17:00迄となります。
- ・答案用紙は、MMCホームページよりダウンロードし、所定の解答用紙を使って提出ください。MMC以外の解答用紙や原稿用紙を利用した答案は採点できません。（MMCホームページの最下部にある「ダウンロード」をクリックし解答用紙を入手ください）
- ・財務事例の計算問題の数値は、再答案の提出と同じく、必ず正しい数値を記入し赤ペンで○印をつけてから提出ください。

◎再答案や本試験問題への取り組みは、「作成と提出」を最終的な目的とするのではなく、そこで得られた「コツや技術」を自分の「武器や鉄則」として標準展開できるように、サブノートなどに整理することをお勧めします。再答案や本試験問題の最終的な目的は、特定の事例を完全攻略することではなく、「自分の答案作成力の向上」と「そこで培った技術の標準化・安定化」、つまり「本試験で安定した実力を発揮するための技術の構築」にあります。